

第37回
シリーズ探訪・探求

訪れたいまち

ふらのの
北海道富良野市

麓 郷 展
北海道 富良野市 東麓郷

癒やーと活力あふれるまち

く 富良野 く

鮮やかな紫色で丘陵を染め上げるラベンダー。雄大な山並み。これらが作りだす美しい景観に、感動と癒やしを求めて訪れる人が絶えない北海道富良野市。北海道のほぼ中心に位置し「北の国から」をはじめとする数々のドラマの舞台にもなっている人気の地だ。

中心街ににぎわいを

国内外に多くのファンを持ち、年間188万人(平成27年度実績)の観光客が訪れる富良野市。しかし観光客のほとんどは郊外の観光スポット七足を運ぶだけで、市の中心街を訪れる人はごくわずかであった。人口減少の影響も加わり「観光地富良野市」としての華やかなイメージとは裏腹に、市の中心部からは活気が失われ、「このままではまちが死んでしまう。何とかしなければ」と危機感を抱き立ち上がったのが、富良野商工会議所の有志と、ふらのまちづくり株式会社社長 西本さんだ。郊外に訪れる観光客を中心街へいざない、まちなかを回遊させる策として、平成22年に商業施設「フランマルシェ」をオープン。全国的に評価の高い地元の農産物やスイーツ、スイーツなどを扱うお店を多数そろえる

とともに、まち全体を紹介するインフォメーション機能も持たせた施設は、「地元食文化とタウン情報の発信基地」となり人々は集まった。そして富良野市の中心街ににぎわいが復活したのである。

ルーバン・フラノ構想

くちよつとおしゃれな田舎まちく

「何とかしたい」——この思いは、まちなかのにぎわいの復活にとどまらず「住む人が誇りと愛着を持てるまち」にしたいという熱い思いへと変化し、富良野市中心市街地活性化基本計画のコンセプト「ルーバン・フラノ構想」へと発展した。「ルーバン」とは「ルーラル(田舎)」と「アーバン(都会)」を合わせた造語で、「都会の快適性」





野菜王国ふらのの
旬な採れたて野菜



富良野産の小麦や牛乳を使った焼き
たてパンは、市民の心をわしづかみ!



ジェラートふらの



はなや日々色



イメージキャラクター
トマ★P

フラノマルシェ / マルシェ2



スパイシーなワイン
「熊の晩酌」



しぼりたての味
「ふらの牛乳」



と「田舎の魅力」を併せ持つ、ちよっとおしやれな田舎まちを意味する。「質の良いサービスなどを提供すべく都会的な感性を持って、快適で心豊かな田園都市を自分たちの手で育んでいこう」という市民の思いが込められている。

この構想をもとに第一期事業として「フラノマルシェ」を先行開業し、まちの玄関口・まちなかのにぎわい滞留拠点として観光客と地元の人々を集客。来客数は年々増え続け、オープンからの5年間で361万人以上^{*}にもなった。その波及効果は大きく、100名近くの雇用を創出することにも、周辺の地価上昇といった結果ももたらした。平成27年には第一期事業として、構想のメイン事業である「ネーブルタウン」が完成。超高齢化社会に対応する「歩いて暮らせるまち（コンパクトシティづくり）」をコンセプトに、商業、マンション、クリニック、介護付有料老人ホーム、認可保育所など、利便性と機能性を持つ三世交代交流の集積拠点が誕生した。

人々が集う「まちの縁側」

ネーブルタウンの中には四季を通して老若男女が集える、全天候型多目的交流空間（アトリウム「タマリーバ」）が設けられている。

「かつての日本には、どの家にも縁側

があり、そこではさまざまな人との会話を通した豊かな人間関係が育まれていました。コミュニティ崩壊の危機が叫ばれている今、まちづくりに求められているのは大勢の人々が世代や立場を超えて楽しく交流する場だと考えました」（西本さん）

フラノマルシェを含む施設内には、アトリウムの他にもくつろげる憩いの場が多数あり、そこには子どもたちの楽しそうにはしゃぎ回る声が響き、その様子を優しく見守る親、そして、おじいちゃん、おばあちゃん姿があつた。たくさんの笑顔と元気があふれる空間は、まさしく「まちの縁側」として、地元の人にも富良野を訪れた人にも愛される場となっている。

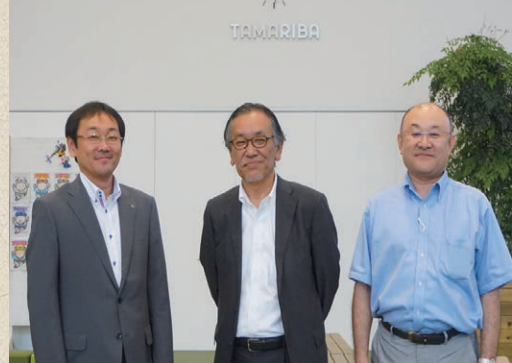
民と官による最強タッグ

「オール市民で取り組むまちづくり」

富良野市のまちづくりは、民間が主体となった行政との協働連携のもと、多くの市民も巻き込んだ熱心な取り組みが大きな特徴としてあげられる。その背景には富良野というまちが持つ高いポテンシャルがあり、それが原動力となっているという。恵まれた自然環境と地域資源、高い地域ブランドイメージ…。これらの「まち力」をつまく活かすことができれば、富良野市はもつと良くなるはずだと市民有志たちは奮闘し、幾多の難題をもクリアし

ネーブルタウン内「タマリーバ」にて
(左から)

富良野商工会議所 木川田さん
ふらのまちづくり(株) 西本さん
富良野市役所 黒崎さん



大臣賞を受賞した。市の職員である黒崎さんは「多様なニーズを捉えるマーケティングや採算性を問われる分野などは民間の力を。ハード面や公共性の高いものは行政の力を。フラットな関係性を保ちながら、それぞれが得意とすることを活かしてあげています」と富良野流まちづくりの長所を教えてくださいました。西本さんも「行政頼みのまちづくりの時代は終わりました。これからは民間と行政が互いにかちりとタッグを組み、オール市民でまちづくりを進める時代です。まちは地域と「コミュニティ」が育てていくものです。子どもたちが自慢できるまちになるよう、これからまあい進んでいきます」と熱く語ってくれました。

まちづくりとは一筋縄ではいかないもの。それがうまくいっているのは、富良野市の民と官の連携体制が単なる連携ではなく、互いに信頼し尊敬し合っているからではないだろうか。皆がしっかりと同じ方

てきたのだ。そしてこの取り組みは全国のモデルケースとなるべく高い評価を受け、本年5月に「まちづくり法人国土交通大臣表彰」において、ふらのまちづくり(株)が「まちの活性化・魅力創出部門」の国土交通

向を向いているからこそ歯車がしっかりと噛み合い、最強のタッグが生まれる。そしてそれが魅力あふれる富良野のまちを育てていくのだらう。



地元をよくよく愛し、情熱と抜群の行動力を持った人たちがいる限り、富良野市はより良いまちへと進化し続ける。人々に癒やしと元気を与えてくれる富良野市。次に訪れる時には、どんな新しい姿を見せてくれるか楽しみだ。



「ニングルテラス」森の中のショッピングロード

富良野
名産品

富良野市 見どころ



ふらのジャム園



ふらのワイン工場



『北の国から』より「五郎の石の家」。毎年多くの「北の国からファン」が訪れる場所。

ドラマ
ロケ地



『優しい時間』の主舞台となった「森の時計」。カウンター席で自らひいた豆のコーヒーを味わおう。



ご当地
グルメ

「富良野オムカレー」富良野の恵みをギュッと盛り込んだ、ご当地グルメ。今年は誕生10周年!

自然

北の峰ゴンドラ山頂では、運がよければ雲海が見られます。目の前に広がる雲の海は絶景の一言!

